

小 6	受験 番号		氏 名	
-----	----------	--	--------	--

入塾試験サンプル

小 6

国 語

[注 意]

1. この「入塾試験サンプル」の問題数は、実際の入塾試験の問題を減らしたサンプル版となっています。
2. 実際の入塾試験では、問題によってはやや難易度が高い問題が出題される場合もあります。
3. 実際の入塾試験では、問題冊子と解答用紙は別々に分かれていますので、本番と同じように解答は解答用紙に記入して下さい。

1 次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカ

ナは漢字で書いて答えなさい。

- ① ばく大な富を手に入れる。
- ② パーティーの余興。
- ③ 送別の幹事になる。
- ④ 妹の料理のうでにシタをまく。
- ⑤ 医学をオサめる。
- ⑥ かばんをアズける。
- ⑦ 国のリヨウドの広さをはかる。
- ⑧ 自由な行動をキセイされる。
- ⑨ けががカンチする。
- ⑩ 鳥のタイグンが飛んでいく。

2 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 次のそれぞれの熟語じゆくごの読み方としてふさわしいものをあとから一

つずつ選び、記号で答えなさい(同じ記号を二度使ってもいいです)。

- | | | |
|------|------|------|
| ① 荷物 | ② 仕事 | ③ 初夢 |
| ④ 牛肉 | ⑤ 七夕 | ⑥ 花束 |

ア 上の字も下の字も音読み。

イ 上の字も下の字も訓読み。

ウ 上の字は音読み、下の字は訓読み。

エ 上の字は訓読み、下の字は音読み。

オ 熟字訓(熟語としての読み方が決まっていて、漢字自体が本来持つている読み方とはちがう読み方をするもの)。

問二 (例)にならって、次のそれぞれの文の——線部のことばを、言

い切りの形に直して書きなさい。

(例) おかしを食くべたい。 ↓ 食べる

A この道をまっすぐ行いけば、図書館があります。

B はげしい夕立も、ようやく上あがった。

C 日が暮れたので、あたりが暗くくなる。

D 祖父の家には、りっぱなびょうぶがある。

3 次のそれぞれの俳句を読み、あとの問いに答えなさい。

A 古池や蛙飛び込む水の音

まつおぼしよう
松尾芭蕉

B 冷麦に氷残りて鳴りにけり

しのはらおんてい
篠原温亭

C をりとりてはらりとおもきすすきかな

いいだたこつ
飯田蛇笏

問一 A～Cの句のそれぞれの、①「季語」(季節を表す語)を書きぬき、

②その季語が表している季節を漢字一字で書いて答えなさい。

問二 A～Cの句から、「切れ字」(句中や句末で意味を切り、感動を表す

ことば)を一つずつ書きぬいて答えなさい。

問三 A～Cの句から、「体言止め」(句末を、ものの名前を表すことばで

終わらせる表現技法)が用いられている句を一つ選び、記号で答えなさい。

い。

問四 A～Cの句から、次の①～③の解説文にあてはまる俳句を、それぞ

れ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 擬態語(ものごとの状態や様子などをそれらしく表現したことば)が効果的に用いられた俳句。

② 静かな中で起きたたった一つの物音をとらえてよみあげた俳句。

③ すぐしげな情景を、作者独特の感性で表現した俳句。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんは、テストを受けた後、どんな気持ちになりますか。

自分が何点をとったのか、気になる人は多いかもしれません。良い点をとれただろうか、それとも悪かっただろうか。そんな風にどきどきしている人もいることでしょう。良い点をとればうれし、悪い点をとってしまったら悲しいですね。もしかすると、悪い点をとったらおうちの人に怒られるという人もいるかもしれません。

A、よく考えてみてください。本当に、点数に良いや悪いなんてあるのでしょうか。たとえば、良い点をとった人は偉えらくて、悪い点をとった人はいけない人なのでしょうか。

そうではないはずです。

点数自体に良いも悪いもありません。それだけで、その人の良し悪しが決まるわけではありません。低い点をとったから悪い子なんて、聞いたことがありませんよね。

テストの点数は、あくまで数字です。テストを受けたのは過去なので、点数を見て良いとか悪いとか判断しても意味がありません。テストを受けた過去を変えることはできないのです。

B、どうすればいいのでしょうか。テストの点数はどう見ると良いのでしょうか。

点数というのは、「今の自分の勉強の出来でき」を判断するものです。今の自分が、これまでに学んできたことをどのくらいできるようになっているの

か、それを数字という形にしたものだと思ってください。そうすると、そのテストの範囲の勉強を、どのくらい自分が理解し、自分のものにしていくのかが分かります。**C** テストというのは、自分の理解度をはかるためのものなのです。どの単元ができていて、どの単元ができていないのか。自分ができていない所を見つけるために行うのがテストということですよ。

テストを受けていて、できると思っていた問題で「あれ？ この答えは何だったっけ？」と困ったことが、みなさんにも一度はあるはずですよ。しっかりと理解したつもりでいても、意外と理解できていないところがあります。**①**そのことに気づいていない人は多いのです。テストがなかったら「きっとできているだろう」となんとなく思ったまま、どんどん勉強が進んでいきます。もし分からない単元があったとしたら、気づかずに進んでいくのですから、どんどん勉強がわからなくなってしまうかもしれません。そうなる前に、苦手を洗い出すものとしてテストがあるのです。

テストで見つけた出来ない所は、必ず復習することが大切です。復習することで、わからなくなっていた部分をきちんと理解して、次へ進むことができます。勉強とは、道なのです。もし道が穴だらけだったら、歩いている時に足をひっかけて転んでしまいます。穴をふさいできれいな道にしておけば、無事に歩いていきますよね。それと同じことなのです。

また、テストで大切なのは、過程かていです。過程とは、テストを受ける日までに、どれくらい勉強をしたか、どんな勉強をしたのか、という道筋みちすじを示すものです。

みなさんは、テストを受ける前にどのくらい勉強をしていますか。もち

ろん、ふだんの宿題以外で、自分で決めて行う勉強です。たとえば、算数のテストがあつたときに、算数の勉強をせずにテストに臨んで、点数が低かつたとしても自業自得じごうじとくです。勉強をしていないのですから、テストで低い点だとしても、それは当然の結果というわけです。

そこで「自分は算数が苦手だから仕方がない」と言ってしまったら、苦手を自分の手づくりだしたことになります。なぜなら、努力という過程をふまずに点数という結果だけを見て、自分には算数ができないと決めつけ、努力することを放棄ほうきしてしまっているからです。少しでも算数の勉強をしていたら、その点数は変わったかもしれません。このまま苦手だと決めつけて、「どうせがんばってもできない」と思つて勉強をしなくなれば、できるはずのことすらできなくなつてしまいます。努力しないということ、自分には可能性がないと決めつけるということなのです。②もつたいないと思いませんか。

ですから、テストの前に勉強をするというのは、とても大切なことです。しかし、ここに大きな落とし穴があります。テスト前の勉強をしていても、点数がとれないということがあるのです。がんばっているのに、点数にならないというのは非常に苦しいものです。無駄な努力を重ねていると感じて、勉強が嫌になることだってあります。

そういう場合は、③勉強のやり方を見直してみましよう。テスト前の勉強は、自分の理解度を上げるためのものです。テストを受ける前に自分のできない所を見つけ出し、解決することがポイントです。自分の勉強を振り返つてみてください。自分の得意な勉強や出来る問題だけやって、苦手な

科目や難しい単元をほったらかしにしていますか。それでは、いくらやろうと、どんなに時間をかけようと、点数が上がるはずはありません。テストではできた問題の分しか、点数にならないのです。自分にとって難しいと感じる問題に対して、どれだけねばり強く向き合い、解決できたかということが点数という結果に表れるといつても過言ではありません。

みなさんは、自転車に乗れますか。今は乗れると言う人も、最初は乗ることができなかったはずです。補助輪をつけたり、おうちの人に手伝ってもらつたり、何度も転びながら練習していくうちに、乗れるようになったと思います。勉強も同じで、くりかえし練習することが大切なのです。間違えたり、教えてもらつたりしながら、何度も取り組んでいくうちに、少しずつできるようになっていきます。勉強は、自転車と同じなのです。

テストはその努力の成果を試す場です。勉強して、自分の苦手を見つけ出し、練習をする。そして、自分の勉強の理解度をテストではかり、分析ぶんせきし、苦手な部分の復習をする。このようにして次へ活かすことで、自然と点数も上がっていきます。自分で考えながら勉強を進めていけば、勉強は今よりもつとおもしろいものになるでしょう。自分の中で分かることが増えれば、より勉強も楽しくなっていきます。

人間は、生きている限りずっと勉強し続ける生き物だと言います。学校の勉強以外に、仕事や趣味といった、自分が興味を持ったことに対する「勉強」だってあります。それだけではありません。ふだん生活をしている中でも、私たちは多くのことを学んでいます。親や友達といった人付き合いの中で気づいたこと、本やテレビといった作品から得た情報や他者の価値

観に触れることなども全て「勉強」だと言えます。

そうすると、勉強もテストも楽しんだ方が一番だと思いませんか。知らない事を知ることが、自分の世界を広げることにもつながります。もし難しい問題にぶつかっても、あきらめずに挑戦し、克服すれば自信にもなるでしょう。テストの点数に振り回されたり、間違いを恐れたりせず、むしろそれすらも自分の力に変えてしまうつもりで、勉強と向き合っているってほしいと思います。「勉強」とは自分を磨き、将来へと歩んでいくみなさんを輝かせてくれるものなのです。

問一 A ・ B ・ C にあてはまる最もふさわしいことばをそれ

ぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば イ しかし
ウ では エ また
オ つまり カ ところで

問二 この文章を大きく三つに分けるとすると、二つ目と三つ目はどこからはじまりますか。それぞれの段落のはじめの五字を本文中から書きぬいて答えなさい。

問三 ———①「そのこと」とは、どういうことですか。次のように説明したとき、に入る最もふさわしいことばを、本文中から十一字で書きぬいて答えなさい。

〈自分ではできると思っているも、と聞いてく。

問四 —— ② 「もったいない」とありますが、筆者がこのように考える

理由として、ふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 勉強せずにテストの結果を見て、苦手だと決めつけ、自分の可能性をあきらめているから。

イ 勉強せずにテストの結果を見て、自分はこの科目が苦手なのだと素直に受け止めているから。

ウ 勉強をせず、テストの結果を見て自分のできていないところも見ようとしていないから。

エ 勉強をすればテストの結果も良かったはずなのに、テストの前の勉強をしていなかったから。

問五 —— ③ 「勉強のやり方を見直してみよう」とありますが、

(1) どのようなときに、こうするとよいのでしょうか。本文中のことはを使って、**四十字以内**（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

(2) 具体的にどのようなようにすることかの説明として、ふさわしいものを次から一つ選び、**記号**で答えなさい。

ア 自分の得意な科目を伸ばして、苦手な科目の分まで点数をとること。

イ 自分の得意な科目ばかりではなく、苦手な科目も克服できるように努力すること。

ウ 自分の苦手な科目はあきらめて、得意な科目の難しい問題に向き合うこと。

エ 自分の苦手な科目とも向き合い、できる問題とできない問題を区別すること。

問六 本文の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 勉強を道とすると、穴は自分が深く理解できているところであり、その過程で見つけた苦手を克服することが大切だ。
- イ 勉強を道とすると、穴は自分ができないところであり、その穴をうめるということは、苦手を見ないようにすることだ。
- ウ 勉強を自転車とすると、転ぶということは間違えるということであり、一つも間違えないようにすることが大切だ。
- エ 勉強を自転車とすると、転ぶということは間違えるということであり、何度も練習してできるようにすることが大切だ。

問七 本文を通して、筆者が最も伝えたいこととして最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間は生きている限り勉強しつづける生き物なのだから、勉強から逃げてはいけないのだということ。
- イ 自分が興味を持った勉強だけをとことん追究して、自分の可能性を広げるべきだということ。
- ウ 難題にもめげずに取り組むことで、勉強を楽しみ、自分を磨いていってほしいということ。
- エ 勉強と真剣に向き合い、間違えないように気をつけ、自信をつけることが大切だということ。

(これで問題は終わりです。)

解答

- ① とみ ② よきよう ③ かんじ ④ 舌

- ⑤ 修 ⑥ 預 ⑦ 領土 ⑧ 規制

- ⑨ 完治 ⑩ 大群

- ② 問一 ① エ ② ウ ③ イ

- ④ ア ⑤ オ ⑥ イ

- 問一 A 行く B 上がる

- C 暗い D りっぱ(だ)

- ③ 問一 A ① 蛙 ② 春

- B ① 冷麦 ② 夏

- C ① すすき ② 秋

《解説》「季語」は、主に天候・天体・年中行事・動物・植物をあらわすことばになります。俳句では季節わけがいまの感覚と少し異なるものもありますので、注意しましょう(例:「二月」≡春、「天の川」≡秋など)。Bの俳句については、「氷」も季語としても用いられますが、ここではより季節感を表現している「冷麦」を書きぬきます。

- 問一 A や B けり C かな

- 問二 A

- 問三 ① C ② A ③ B

《解説》

問三 「水の音」ともこの名前(体言)で終わっています。

問四 Cの「はらりと」が擬態語です。

◎ それぞれの句の意味は次の通りです。

A 静かな春の日、蛙が古池に飛び込む音が聞こえてくる。

B 食べ終えた冷麦の器の中で、とけ残った氷がすすしい音を立てた。

C 軽そうなすすきを折り取ってみると、意外に重く、はらりとなだれかかるようにその重みが手に伝わったことだ。

- ④ 問一 A イ B ウ C オ

《解説》接続語の問題です。接続語は文と文をつなぐはたらきのことばですので、必ず前後の文章がヒントになります。Aから順番に解くより、まず全部の問題を確認し、わかりやすいものから答えましょう。

問二 二つ目 : また、テス

三つ目 : 人間は、生

《解説》文章を意味段落で分ける問題です。本文をしっかり読み、どのような内容が書かれているのかをつかみます。接続語もヒントになりますので、見落とさないようにしましょう。一つ目はテストを受けた後の復習、二つ目はテストを受ける前の勉強、三つ目には勉強についてのまとめの話が書かれています。

問三 意外と理解できていない

《解説》指示語の問題です。指示語の内容は必ず前の内容を指しますが、まずは指示語の直後を確認しましょう。直後に「気づいていない人は多いのです。」とあります。「気づいていないものは何か？」という点を踏まえて前の文を読みに行くと、「しっかりと理解したつもりでいても、意外と理解できていないところ」と書いてあることに気づきます。この中から指定された字数で、問いの空白に合うようにことばを書きぬきましょう。

問四 ア

《解説》選択問題の場合は、選択肢を見る前になる程度、答えを考えてから選んでいきましょう。選択肢の内容に惑わされて正しい答えが選べないことが多くあります。この問題の場合は、「もったいない」と書いてある段落を読み直し、最も理由として適切な選択肢を選ぶことがポイントです。

問五 (1) 勉強をしているのに点数にならず、無駄な努力を重ねていると感じて、勉強が嫌に（苦しく）なったとき。

《解説》問三と同じく、指示語の問題です。傍線部の一文を読むと、直前に「そういう場合」という指示語が見つかります。どのような時に勉強のやり方を見直すのか、前の段落に戻って確認をしましょう。その上で段落の内容を、字数に合わせてまとめ、答えに書きましょう。

(2) イ

《解説》選択問題の場合は、選択肢を見る前になる程度、答えを考えてから選んでいきましょう。選択肢の内容に惑わされて正しい答え

が選べないことが多くあります。この問題の場合は、「具体的に」と書かれていることから、分かりやすく述べられている部分を探します。段落を読み返し、勉強のやり方が書かれている部分を読み取り、選択肢を選ぶことがポイントです。

問六 エ

《解説》内容把握はあくの問題です。文章の内容をしっかりとつかんでいるかが問われています。今回は、途中で出てきた例えについて、正しくつかめているかをきかれています。なんとなくではなく、必ず理由を説明できるようにすることが大切です。本文に戻って、自分の考えが正しいかどうかを確認することを忘れずに。

問七 ウ

《解説》筆者が最も伝えたいことを答える問題です。本文全体をつかむことはもちろんですが、筆者が言いたいことがどのあたりに、どのようにして書かれているか、ヒントを知っておくことは重要です。今回は、問二で意味段落に分けたことから、三つ目の最後に筆者の主張があるのではと予想できます。最後を読むことがチェックポイントその一です。

チェックポイントその二は、「〜と思う」「〜と考える」「〜べきだ」「〜欲しい」といった、筆者の考えが直接的に書かれている部分です。本文の途中にもありますから、筆者の伝えたいことが述べられている所は確認しましょう。

選択肢には、本文に書かれている内容も入っていることがあります。今回は「筆者が最も伝えたいこと」を答えるので、惑わされないように注意しましょう。

